

# かぶとやま しつげん ほぜん と く 甲山湿原保全の取り組み

## 大切な甲山湿原

甲山湿原は1975年に西宮市の生物保護地区に指定され、西宮市の天然記念物ともなっています。甲山の斜面の林から浸みだした地下水が粘土層の上にある花崗岩の砂地の中に溜まって湿地になりました。一見目立ちませんが、驚くほどたくさんの動植物が生息しています。

このような水源や水質、地質、日照などの様々な条件を維持しなければ湿原は成立し続けることができません。

## 絶滅の恐れのある湿原の生きもの

青字は花期 (※ヒメヒカゲ、ハッチョウトンボは甲山湿原では近年確認されていません。)



トキソウ 6~7月



カキラン 6~8月



ミミカキグサ 7~8月



ヒメヒカゲ※



サギソウ 8~9月



ウメバチソウ 10~11月



ハッチョウトンボ※

## 湿原保全の取り組み



通常の湿原

- ・まわりの樹木の成長
- ・水量の減少
- ・日照の低下
- ・腐葉土の堆積



湿原が小さくなり、数十年後、湿原の生きものは暮らせなくなります。



湿原を元の状態に近づけます。

## 湿原の生きもの モウセンゴケ

他の植物と同じように光合成で生育できますが、足りない栄養素(窒素)を補うために、虫を捕まえて食べます。



## 湿原の生きもの ヒメタイコウチ

1933年に西宮市での発見が日本での最初の記録とされており、兵庫県の絶滅危惧種Aランクに指定されています。もともと、アジア大陸北東部にすむ北方系の昆虫で、氷河期に日本列島が大陸と陸続きのころに日本に進入してきました。



寄贈：一般社団法人西宮高齢者事業団

NPO法人子ども環境活動支援協会

この野外解説板のデザインは平成21年度ライフ&ネイピア環境助成事業(株式会社ライフコーポレーション・王子ネイピア株式会社)により作成しました。